

[抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団</p> <p>平成26年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
<p>1. 事業名：沖縄県版歯科健診プログラム『D o チェック』リーダー研修会</p>
<p>2. 申請者名：一般社団法人 沖縄県歯科医師会</p>
<p>3. 実施組織：一般社団法人 沖縄県歯科医師会</p>
<p>4. 事業の概要：</p> <p>生活習慣改善における相手の考えや気持ちを知るようにし、健診結果に基づき、保健指導実施者（歯科医師・歯科衛生士）が、受診者に必要とされる情報提供と支援を行い、健康に関わる行動変容のための目標設定を協同で行う参加型の保健指導を習得する。</p> <p>指導を受けた受診者が、生活習慣や口腔ケアに関する意識改善、習慣変容を図り、自らの意志で歯科受診する動機づけとなることを目的とする。また、それにより歯周病によって起こりうる糖尿病や低体重児早産などの様々なリスクを回避し、全身の生活習慣病を予防することを目指す。</p>
<p>5. 事業の内容：</p> <p>①標準的な成人歯科健診プログラム（生活歯援プログラム）の意義、経緯および『D o チェック』について</p> <p>研修では、タブレット端末によるタッチ入力回答方式の歯科健診プログラム『D o チェック』の土台となっている日本歯科医師会生活歯援プログラムの意義および解釈を学び、質問形式による保健行動・現状認識を把握し、保健指導による「支援」に繋げる過程を学習する。</p> <p>②指導しない保健指導（やる気にする保健指導）を目指して</p> <p>『D o チェック』の周知、活用を担う歯科医師、歯科衛生士を中心とした受講者を対象に、従来の保健指導にあるような受診者の「望ましくない習慣」を特定し、それを改めさせようとする「指導」ではなく、習慣変容の難しさを踏まえたうえで、そのプロセスを通じて、受診者本人が「自分の問題に気づく」、「自ら目標を設定する」ことを目的とした「支援」の考え方と「考察」を習得する。</p>
<p>6. 実施後の評価（今後の課題）：</p> <p>受講者は、「指導」ではなく、「支援」を目的とした保健指導を実践形式のワークショップで体験し、多くの参加者がこれまで患者を指導、教育するような保健指導を行っていたことに気づかされ、アサーティブな表現を活用した柔軟なコミュニケーションを学んだ。そして、受診者と共に行動変容のための目標設定を行う協同型の保健指導を習得することができた。</p> <p>参加した歯科医師、歯科衛生士が習得した知識や技術を活かした保健指導を行うことにより、指導を受けた受診者が自らの意志で歯科受診し、歯周病や生活習慣病の発生率減少に繋がることを期待する。また、この「支援」する保健指導が歯科医療関係者に広く周知され、指導者側の意識改革や患者とのアプローチに変化をもたらし、指導後の受診者の満足感向上、効率的で効果的な歯科保健指導により、健康長寿社会に寄与する歯科医療・口腔保健の充実、向上を目指す。</p>